

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

平成 30 年 6 月定例会

議席番号 5 番
高桑 佳子議員

1. これからの高齢者福祉の在り方について

（1）これまで出雲崎町の高齢者福祉体制は、地域の実情に則した対応を組む努力がなされており、制度の充実が図られてきた。また、介護予防の取り組みも進み、一定の成果をあげている。我が町において、若い世代が少ない現状では、介護する側の高齢化、サービスを提供する側の人手不足は深刻と考える。これから 10 年、20 年先を見据えて、早急に対策を検討するべきと考えるがどうか。

（2）高齢者や地域住民が困っていることについて、地域住民自身が理解できていないことがあるように感じる。各家庭に立ち入って欲しくないという感情はあるが、それ以上に地域で助け合おうという土壌ができていないのではないか。出雲崎町社会福祉協議会や民生委員の活動だけでなく、町民が自ら参加できる助け合い活動を推進する手立てを講ずるべきではないか。

（3）中越老人福祉協会、介護の現場における人手不足はより一層深刻である。また、この 3 月末でヘルパー事業から撤退しており、他町村の事業所に頼っている。町として広報やチラシでも募集を呼びかけているが、充足には至らない。その背景には、仕事がきついこと、時間が不規則になること、賃金が安いことがある。新たに正職員に採用された場合一時金を出す制度を補助しているが、頑張っているベテラン・中間層に対しても、町として支援し、充実を図る考えはないか。

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

平成 30 年 12 月定例会

議席番号 5 番
高桑 佳子議員

1. 当町における自助・共助の取り組みを引き出す公助の在り方について

新潟県町村自治研修会で、災害に強い地域を作るためには、地域のコミュニティ力を上げることであり、自助・共助の取り組みを引き出す公助の在り方が重要であると学んできた。災害のみならず、今後あらゆる方面で重要となってくる自助・共助を引き出すための施策について、次の 3 点を伺う。

（1）地域に助け合いを広げるために、「生活支援体制整備事業」が始まって半年が経過した。今後、地域を考える時に、中心的な事業として発展させていくべきものと考えているが、どのように進めていく考えか伺う。

（2）地域に人の輪を広げていくための施策として、中高年層を対象とするものは充実しているが、若い世代に働きかけるものが少ないと感じる。出雲崎町の将来を考えた時、今、押さえておくべきポイントと思う。新しいものでなくとも、既存の「学校地域支援事業」等をさらに充実させて整理し、防災やサイエンス等のメニューを紹介するなど、学校の保護者同士のつながりをサポートする機能を持つことについてはどう考えるか。

（3）子ども子育て支援事業において、「ファミリーサポート事業」の実施を望む声が挙がっている。当町の規模では難しいことから、常に高い要望でありながら、メニューからは外されている。今後、実施に向けて検討をする考えはないか。